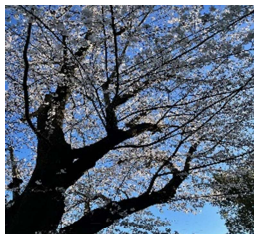


“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>



心に響く出会いをありがとう

校長 丹羽正昇

先日、卒業証書授与式が行われ、80名の卒業生、一人一人に卒業証書をお渡ししました。その際、卒業生へのはなむけとして「響」という一字を贈りました。

この漢字の意味には、読みと同じひびくというものや、音が広く聞こえわたるというものがあります。響の上の部分の漢字、実はこれ、ごちそうをはさんで楽しく会話をしている人と人々を表しています。この意味するところは、人と人々がお互いに通じ合うというものです。つまり、「響」とは、言葉により人と人々に通じ合っている様子を表しているというわけです。表面的な言葉ではなく、心に響く言葉によってつながっていく。それは、どういうことなのでしょう。

6年生の国語科の教科書に自分の生き方について考える教材があります。池上彰さんの「メディアと人間社会」、鴻上尚史さんの「大切な人と深くつながるために」、石戸奈々子さんの「プログラミングで未来を創る」の三つです。彼らは、異口同音に、人々の出会いが、子どもの未来を創造していくことを語っています。それらを、率直な私の言葉でまとめるとすれば、「人というのは、想像力を働かせ、意欲をもちながら、積極的に人と関わる中で成長する」そして、「自分や自分以外の人のことを大切に、力を合わせて生活していくことが、明るい未来社会を創っていくことにつながる」ということかと思えます。

三人のメッセージを引用することで私が卒業生に伝えたかったことは、私の中に起こった変化についてでした。三人のメッセージを読む前と読んだ後では、私の中に確かな違いが生まれたということです。それは、自分の中に芽生えた新しい考えや想い、感じ方であり、私の中で生まれた新しい言葉でもありました。三人のメッセージが、心に届き、響いたことの証拠だと、私は考えています。

実は、この「響」という漢字には、他の人や物に作用するという意味もあり、他を変えるということも表しています。人と人々が出会ったり、直接出会わなくても、その人の発した言葉に出合ったりすることにより、心の中に生じる響き。それには、心地よいものもあれば、そうでないものもあることでしょう。しかし、心に響くことで生まれる感情や湧き上がってくる想いは、別の言葉にすれば、新たな自分の発見であり、新たな自分との出会いなのだと思います。人々の出会いやある出来事を経験することを繰り返しながら、自分がどんどん変化していきたり、自分という人間がどのような人間か分かってきたりする。そうやって人は、成長していくのではないのでしょうか。ひょっとしたら、人は人と出会い、多くの経験をするだけで、本当の自分には出会えないのかもしれませんが。これは、いままでに私自身が多くの人と出会い、多くの経験を積み重ねてきたことから得た考えです。

卒業生にも在校生にも言いたいのは、皆さんの母校である、ひぐみでの生活の中で出会った多くの人たちや多くの経験。それらが、いまの皆さんを育て、これからの皆さんを支えていくということです。これからも、多くの出会いがもたらす響きを感じ、新しい自分との出会いにわくわく、どきどきしながら、心に響く多くの出会いに感謝して生きていってほしい。そう願っています。

来年度も、心に響く学びの在り方をひぐみっ子と一緒に追い求めていきます。一年間、ありがとうございました。